

前半

作者の見たものの描写

後半

前半を受けての作者の考え、思い

みちしるべ

① この詩に用いられているたとえ（比喩）の表現を抜き出し、何を何にたとえたものなのか、話し合おう。

② 作者が「虹の足」を見て発見したことについて考え、感想を交流しよう。

虹の足 吉野 弘

★ そもそも「虹の足」って何？

タイトルにもあるこの「虹の足」が何なのか、わからなさと内容がわかりにくい。言葉でいうなら虹の端の部分で、地面に接している部分です。イメージがわかない人はネットで画像検索してみよう！

目標

- 見えている「虹の足」によって、見えていない「虹の足」について考える。

雨があがって
雲間から
乾^{かん}麺^{めん}みたいに真直な
陽射しがたくさん地上に刺さり
行手に榛名山が見えたところ

山路を登るバスの中で見たのだ、虹の足を。

眼下にひろがる田圃の上に

虹がそっと足を下ろしたのを！「見たのだ」が省略

野面にすらりと足を置いて

虹のアーチが軽やかに

すつくと空に立ったのを！「見たのだ」が省略

その虹の足の底に

小さな村といくつかの家が

虹の足の中に村が入っているということ。

すつぱり抱かれて染められていたのだ。

それなのに

家から飛び出して虹の足にさわろうとする人影は見えない。

——おい、君の家が虹の中にあるぞオ

乗客たちは頬を火照らせ、頬が熱い、頬が赤くなる様子。乗客たちが興奮している、感動していることがわかる。

野面に立った虹の足に見とれた。

多分、あれはバスの中の僕らには見えて

村の人々には見えないのだ。

そんなこともあるのだろう

他人には見えて

自分には見えない幸福の中で

格別驚きもせず

幸福に生きていることが——。「あるだろう」が省略

前に書いてあるから、こゝで省略できる。毎日「見たのだ」と書くとしつこいし、何よりも省略した方が虹の足と見た時の驚きや感動を強調できる！

前の「見たのだ」は「も」あって強調しているが、ここは「余韻」を残している。ここも同様で、前に表現があるから省略できる！

虹^{にじ} 虹色

乾^{かん} 乾いた土

麺^{めん} 麺類

榛名山

群馬県中部にある山。

頬^ほ 頬紅



吉野 弘

〔一九二六—二〇一四〕

山形県に生まれた。

詩人。

詩集に『消息』『幻』

方法』『感傷旅行』『北人

會』『叙景』などがある。

《出典》『新選現代詩文庫

121 新選吉野弘詩集』に

よった。